

# 「元氣な新庄・最上」つくる新幹線延伸



## 鉄 道

JR東日本新庄駅

伊賀 勝栄

待ちに待った山形新幹線新庄延伸が十二月四日に開業、「つばさ」が東京駅から直接新庄駅に乗り入れた。今、地域の人々はどんな思いでいるのだろうか。

私は、平成九年二月二十一日、山形新幹線延伸が決定した日に新庄駅に着任した。新庄駅は、新幹線ホーム、在来線への移動は階段一つを上る必要がなく、ホームには大屋根が掛けられた日本人に優しい駅である。社員は設備に負けないよう、JR東日本で一番のサービスモデル駅を目指している。

新庄延伸で新庄、最上地方は大変豊かな地域となった。新幹線を迎えたことは他の地域に負けない条件が備わることと言える。

観光キャンペーン「四季感動のやまがた」に対する本県の熱の入れ方は、全国的な取り組みと比べてトップクラスである。そんな中で新庄、最上地方の観光の実態はどうであろう。一部を除いて「もてなしの心」がまだ力不足の感はある。山形新幹線新庄延伸で「飯の食える観光」「新庄・最上らしさ」を全国へ

発進する絶好のチャンスなのに、である。

今必要なことは、地元の人が薦める「夢とロマンの新庄・最上の観光」を創造することではないかと考える。

「四季感動の新庄・最上」を考えれば、素晴らしい素材がいっぱいある。安全でおいしい農産物の提供は日本社会全体の課題となっており、農業と観光とを結び付けた新しい商品づくり、観光農業へのチャレンジは国内各地で取り組まれている。米をはじめ、そば、舞茸、漬物、チャンピオン牛、ワココム米、非遺伝子組み替え大豆、地鶏卵、バラなどがある新庄、最上地方は観光農業の宝庫である。これを生かせるかどうかは地元の人々の取り組み次第であり、その取り組みには新しい観光を創造する気概が必要と考える。

私は「ノスタルジックSSL文庫フェスティバル実行委員会」をつくり、「活力あるにぎわいのある新庄・最上」を目標に、各地域の宝物探し「夢とロマンの旅創り」に取り組んできた。「名物創造大作戦」のプロジェクトチー

ムは、九品目の新しい特産品を開発、一口サイズのくじら餅が好評であり、さらに、新しい観光商品として「新庄冬物語」を平成十一年十一月十一日十一時十一分（いい年いい月いい日いい時間）のこだわりの時に発表した。

去る七月二十四日には新庄囃子で踊る第二回「チエレンコ祭り」を開催。「新庄祭り」が八月二十四日までのみちのくの夏祭りのフィナーレであれば、七月二十四日の「チエレンコ祭り」はみちのく夏祭りのスタートと位置づけることができる。みちのくの夏祭りは新庄から始まり新庄で終わるという雪と祭りのふるさと新庄のイメージアップを図ったものである。また、最上地方の方言は、言葉の語尾に「じゅ」と付ける。平成十年十月十日は「じゅ」「じゅ」「じゅ」の絶好の「最上地方の日」となる。それを記念して昨年から開催しているのが「もがみの日フェスティバル」であり、その中で「じゅ」を使った「新庄弁名せりふコンテスト」を開催、新庄南高等学校

# Value Sight 鉄道

「元氣な新庄・最上」つくる新幹線延伸



の生徒がコント風に作り上げた作品は素晴らしい内容となった。また、サイコロゲームをし、十が出たら饅頭、豆腐、納豆十個をプレゼントする企画を行い好評を得ることが出来た。

新庄・最上に来なければ見ることが出来ないもの、そこに来なければ触れることが出来ないもの、そして最も大切な人との出会いを提供すること、これが観光である。

遠くから来ていただいた人々へ「新庄・最上はいいところですよ」と新庄、最上地方の素晴らしさを自慢することができるよう自信

を持つことが大切である。JR新庄駅の社員一同は二十一世紀に向けて新しい情報の発信基地となるよう、心を一つにして夢と希望を持って取り組んでいる。

地域の誰もが二十一世紀が平和で豊かな時代であって欲しいと願っており、新庄駅が新幹線のターミナルとなることは、大きなチャンスであることは間違いない。これを生かすのは地元の人々である。そして、そのチャンスを開き出すのは自分自身である。

多くの人々が新幹線で新庄、最上地方を訪れ観光を楽しんでもらえる仕掛けを創造しなければならぬ。地元の人々の飽きなき挑戦を期待する。

私は新庄、最上地方の人材育成のシンボルマークを創造した。大切なことは、人創りである。夢を拓く、夢に懸けるチャレンジャーを育てることが大切であると考ええる。

「かぜ」を感じ、「かぜ」を起こすJR東日本は、全社を挙げて山形新幹線新庄延伸を応援しよう、あらゆる方法で成功に向けて取り組んできた。しかし、地域の活性化は、この土地を愛し、この土地で暮らす人々の双肩に掛かっていると一言でも過言ではない。

人々が初めて訪れた時の新庄、最上地方の印象によって、この地域の将来が決まる。新幹線の開通が大きなポイントとなる。

私は、「今やらねばいつ出来る、おれがやらねば誰がやる」をスローガンとし、自分自身の問題としてとらえて取り組んでいる。新庄、最上地方のルネッサンス運動は、必ずしも金をかけることではない。地元の多くの人々が参加意識を持つことが重要である。特に、「なぜ」の疑問をもつことが重要である。新幹線

開業という大改革、変化に敏感な対応をし、「かぜ」を感じ、「かぜ」を起こす力を出す時期であると考える。「燃えろ、怒れ、新庄・最上」と言いたい。

私が思う「新庄・最上の連携」とは、「よそのまちを自慢すること」ではないかと考える、他市町村の観光パンフレットを備えていて、訪れた人々に情報提供が出来ることである。どうしても参加したい仕掛けをつくること、行ってみたくなる情報、心が動かされる情報を提供することである。各市町村が真に提携し互いに知恵を出し合うことである。

東京駅で一時間ごとの「新庄行き」の放送が流れ、延伸された山形新幹線沿いの各駅が一新され、陸羽東西線の車両も新型車両となる。新庄駅には一千台の大駐車場が完成した。「元氣な新庄・最上」へ向けて地元と一体となつて情報発信をして行く、思い出創造事業」にみんなでチャレンジしたい。

## 伊賀 勝栄

JR東日本新庄駅長  
昭和22年11月13日秋田県雄勝町横堀生まれ  
新庄市在住

米沢、新庄勤務から、山形駅助役、秋田鉄道管理局、東北地域本社を経て、平成6年JR左沢線営業所長となる。「トロッコ列車」「ワイン列車」「ひなの道」「そば街道」等、山形の観光資源を発掘し商品化した。

平成9年2月21日山形新幹線延伸決定の日新庄駅長に就任し、現在に至る。新庄、最上地方の活性化のために奮闘中。